



第29号

平成25年2月1日発行

福岡県立学校事務職員協会

「当 意 即 妙」

新年、明けましておめでとうございます。会員の皆様方におかれましては、定期監査も昨年で終了し、健やかな新年を迎えられたことと存じます。しかしながら、その気分も束の間、3学期は学校において入試業務、卒業式、年度末業務、そして人事異動等、大変慌ただしく過ぎていく時期となります。

さて、昨年6月には、全国公立高等学校事務職員協会九州協議会研究大会が福岡県で開催され、九州各県から461名の参加をいただきました。各県の財政事情等の関係もあるかと思いますが、年々大会参加者が減少傾向にあります。今回も当初の見込みよりも若干少ない参加人数でしたが、多くの方々に福岡にお越しいただき、福岡県の会員の団結力を発揮することができたのではないかと自負しております。また、この大会の運営にあたっては、実行委員会のスタッフ並びに会員の皆様のご協力を得まして、無事終了することができ、また大変有意義な大会になったことに対しまして深く感謝申し上げます。

先日、11月22日(木)に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて実施されました全国協会理事会の報告をいたします。

○7月26日から27日にかけて実施された第65回全国研究大会水戸大会について報告があり、全国から872名の参加と、茨城県事務職員の皆様の心温まる大会運営及び大会に参加された会員の協力により成功裏に終了した旨、報告がありました。なお、次回の全国研究大会の開催県は東海支部の岐阜県が開催することを総会において決定しております。また、日程は平成25年7月25日(木)から26日(金)の2日間となっております。

○全国協会の会費の方向性について報告があり、23年度から高等学校の会費を500円減額し1校あたり3,000円としていますが、全国の各協会の状況を見ると助成金の減額等厳しい財政状況にあることから、更に500円引き下げ、高等学校及び特別支援学校等の1校あたりの会費を2,500円に統一することを検討したところですが、しかしながら、退会等による今後の会費収入の減少を考えると、引き下げにより全国研究大会等の運営を維持していくのに支障が出てくる恐れがあり、会費については現状を維持したい旨報告がありました。なお、協会本部におきましては、協会本部及び支部等の事業活動に支障のない範囲で支出を見直し、更に効果的な予算執行に努めていきたいとのことでした。

本県協会としても、一層の経費の見直し等を行い、効率的・効果的な運用を図っていきたくと考えておりますので、今後とも会員の皆様にはご協力をお願いいたします。

昨年は、東日本大震災後の様々な影響により、電力不足が懸念される年となり、学校を管理運営する者としては、予算面での節約、更には電力面での節電と、生徒及び教職員への周知に苦労されたことと思えます。また、新年度には電気料の値上げや、これに伴う様々な商品の価格の上昇が予想され、更に厳しい学校運営を迫られることになりそうです。この厳しい状況の中で、私たち学校事務職員はこの現実はどう向きあい、どのように対処すべきなのか問われているのではないのでしょうか。協会といたしましても、会員の皆様からの様々な提案・工夫等の情報をお聞きしまして、生徒及び教職員が少しでも快適な時間を過ごせるよう前向きに取り組んでいきたいと考えております。

今年度も残すところ二月となり、年度末の慌ただしい時期を迎えることとなりますが、会員の皆様方におかれましては健康に留意され、「明るい事務室」をモットーに新年度を迎えられますよう祈念し、あいさついたします。

会長 杉山 武

副会長の年頭挨拶

「平成24年は私たち事務職員にとってはどんな年になるのでしょうか。」と昨年の協会だよりに年頭のあいさつをしましたが今年は、「監査対策の年」と言えるものでした。4月下旬から始まった随時監査は9月までに45校実施され（昨年度も同数）、その結果は概ね良好であったように思いますが、「旅費」については依然として改善事項が指摘されています。事務職員の旅費は総務事務センターでチェックを受けるため問題がないようですが、教員の旅費は、事務室で支給するためチェック体制が十分でなかったようです。以前は毎年、現地校監査が実施されていたため、必ず書類の見直しを行っていたことを考えると、事務職員（事務室）の「監査に対する姿勢」に問題があるように感じます。本県協会は、事務長会と協力して、昨年1月と今年7月～9月に各地区で「監査対策会議」を実施しました。実務担当者でお互いの書類を点検する試みを行いましたが、今年の監査結果が気になるようです。また、私費会計については、監査で聞き取りが行われています。東京都では、平成17年度から私費会計業務が「公務」と位置付けられ、教育庁による2年毎の「業務服務観察」と学校経営支援センターによる毎年の「私費会計点検」が実施されています。私費会計についても今後どう対処していくのかの早急な検討が必要だと思えます。

さて、IT化、集中化による事務室への影響はどうなっているのでしょうか。他県からの報告によると「学校事務支援センター」が設置されて、北海道では5人校が1人減、東京都では6人校が2人減、神奈川県、愛知県、新潟県では4人校が1人減となりました。さらに、技能員の職務が外部委託され、事務職員への職種変更が進んでいます。今年の本県事務長会研修会において、東京都立学校の「経営企画室」に関する事例研究発表がありました。事務室の役割を見直し、これまで事務室が担っていた給与、旅費、契約、施設修繕等の業務を「学校経営支援センター」（各校2人を配置転換）に集約し、事務室を「経営企画室」と改編して学校経営企画機能を持たせた新しい取り組みを5年前から行っています。経営機能、経理機能、庶務機能の3つの機能に分類され、校長の自律的な学校経営を支える事務室へと改革されました。千葉県では、平成18年度から3年間、文部科学省の委託を受けて「学校事務の量と質の変化及び事務職員の配置の在り方に関する調査研究」が実施され、事務職員に求められる役割として、①経営を支える企画立案 ②有効な予算執行 ③広報・渉外 ④情報の管理・活用 ⑤生徒支援の5つの役割があると報告されました。千葉県の研究は東京都と同様の方向をめざしているようです。本県も事務室をどんな方向に位置づけしていくのか今後の研究が必要になっていくものと思えます。

全国協会加盟校数は、この5年間で509校減少しています（高校579校減、特別支援70校増）。また、協会活動の休会は、新潟県、神奈川県、神奈川市、大阪府と平成24年度から東日本大震災により福島県が休会しました。職員採用区分では「学校事務」ではなく「行政職」で採用されるようになり、知事部局との人事交流がさかんに行われ、これまでのように学校現場一筋ということがない時代になりました。その結果、協会活動への理解が薄れ、研究会や研修会への参加者減少が顕著になってきているとの報告があります。本県では、「学校事務」での採用が実施されていますので、若い力が職場に入ってきていますから、職場がよい意味で活性化していくものと思えます。事務室として新人教育に力を入れて、これから10年間で事務職員として役立っているという実感を若い事務職員に与えることが大切になります。そのためには中堅職員の活躍を切望するものです。「先輩から後輩への貴重なひとこと」を大切に若力を育ててください。また、本県協会には、事務改善委員会、事務提要委員会、情報委員会の3つの委員会が設置されています。県下4地区には、それぞれ「地区事務研究委員会」も設置されています。これらの委員会に積極的に参加していただきたいと思えます。

おわりに、今年度本県で開催されました「第60回事務職員協会九州協議会研究大会（九州大会）」に多数（全体461名、本県182名）参加していただきありがとうございました。全国大会には872名、本県62名の参加がありました。今後も研究大会に多くの方々が参加されて、研究発表が事務職員の資質向上に役立っていることを願い、年頭のあいさつとします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

副会長 浜田 富士満

各地区活動報告

● 北九州地区 (会長 柳本 憲男)

北九州地区では、業務の改善について研究を行い、また自発的研修を行うことにより、学校間の連携と事務職員の資質、職務遂行能力の向上を図ることを目的として活動しています。

本年度の事業は、「実務研修会」・「地区別研修会」・「パソコン研修会」・「新規採用職員研修会」を実施しています。さらに、活動の充実を図るため、平成25年2月8日には、北九州地区県立学校事務次長・事務主査会共催による「次世代を担う若者育成塾」を実施予定です。これら協会の活動に際しましては、今後も、会員の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【主な研修会の概要】

「実務研修会」は、財務課から講師を迎え、「会計事務地域点検会議の質疑」について研修を行いました。事前に取りまとめた質問事項への回答や、会計指導等で指導を受けた事例の説明をいただきました。日常業務を遂行するうえで大変参考となる実務的な内容で、有意義な研修を行うことができました。

県教育委員会との共催による「地区別研修会」では、前半は、北九州市立男女共同参画センター・ムーブから講師を迎え、「ワーク・ライフ・バランス」という演題で講話をしていただきました。仕事と生活の調和について勉強しました。後半は、主事から事務長まで、階層を問わず6つの班を構成し、3つのテーマ（事務室内のチームワーク、学校での危機管理、学校窓口としての事務室の在り方）から、あらかじめ割り振られたテーマ1つについて班別に討議を行いました。その後、各班の発表者が討議内容を発表し、世代を超えた交流と学校間の連携及び事務職員としての資質向上を図ることができました。

「パソコン研修会」は、9月に県庁OAルームを会場に実施しました。日常業務に役立つよう、エクセルによる表および図形の作成・挿入、エクセル関数について勉強しました。インストラクターによる丁寧でわかりやすい指導で、充実した研修を実施することができました。

昨年に引き続き「新規採用職員研修会」も3回実施しました。3回とも先輩職員が講師となり、「旅費事務について」・「給与事務について」・「人事・サービス事務について」の実務に役立つ内容を中心に研修を行いました。また講義のあと、それぞれ、1回目は旅費の演習問題、2回目は採用2年目の先輩からの体験発表、3回目は小倉総合車両センターで工場見学を行い、研鑽を深めました。



新規採用職員研修会

【各研究委員会の活動状況】

「地区研究委員会」では、本年度から新たなメンバーを加えて活動を行っています。これまでの研究成果を基に、今後の事務職員の資質向上に資するものとして、私たちが直面している諸課題に対し、1つの考えるヒントとなれば、という視点でテーマの精選を行い、活動を進めてまいる所存です。

「パソコン研究委員会」では、エクセル2003について研修会を実施しました。日常業務で役立つ実践的な内容を目指しています。来年度も誰もが参加できる研修を、と考えていますので、今まで参加されたことのない方も奮ってご参加ください。

● 福岡地区 (会長 濱田 和雄)

福岡地区では、会員相互の親睦と事務職員の資質向上を図り、学校教育の発展に寄与することを目的として、研究・研修を行っています。この中で特に、財務会計等の基礎・基本を重視した事務処理の推進、行政職員としての学校経営能力の向上を努めていきたいと思っております。

本年の事業としては、県教育委員会との共催により『省エネ』をテーマとした「地区別研修会」を9月に実施しました。今年度で3年目となる「新規採用事務職員研修会」を「初任者研修会」に名称を変更し、採用1～3年目を対象とした研修会を7月・10月・12月に開催しました。参事兼事務長の講話、事務主査の実務研修、初任者による体験発表及びグループ討議等の研修内容で、充実した研修会ができたと思います。このほか3地区においての「ブロック別研修会」及びパソコン部会が主体となつての「パソコン研修会」を行っています。

また、地区研究委員会は新メンバーとなり今年度から活動を開始したところです。

【地区別研修会】

平成24年9月14日(金) 福岡リーセントホテル 13:00～17:00 参加者47名

1 講話「地球温暖化の影響と今私たちができる学校の省エネ」(13:30～14:50)

講師 福岡県環境マイスター 松井 亮二 氏

(内 容)

第1部 何故 省エネ・節電をしなければならないのか

～温暖化の影響と思われる身近な影響と原因～

I 温暖化の影響と思われる身近な異常現象と原因

- ・平均気温が上昇している
- ・福岡市では100年で+2.3度
→健康への影響(熱中症等)
- ・想定外の集中豪雨や干ばつ、低温等異常気象が増えていく可能性がある。
- ・米や果物の品質悪化等が深刻化している。

II 温室効果ガスをどれくらい減らしたらいいか

- ・気温上昇を2度以下に抑えるためには、2050年の世界全体の温室効果ガス排出量を50%以上削減する必要がある。

第2部 九州の深刻化する電力不足対策 ～計画停電実施の背景～

I 電力不足対策

II 計画停電実施を阻止できる具体的な節電方法

- ・毎日の生活の中で電力の使用量を削減する。
- ・電力のピーク時間帯に消費電力の多い機器の使用時間をずらす。

第3部 学校の省エネ・節電の進め方と具体的方策

I 学校の現状

II 省エネ・節電の進め方

- ・使用量の実態把握と管理規定の整備
- ・削減目標の設定
- ・削減の実践と実績の把握(分析・評価・改善等)



Ⅲ 学校の具体的な省エネ・節電方法

- ・節電の啓発、教室や廊下等の照明の間引き、照明灯の交換（LED等）
- ・空調の温度設定等

2 グループ討議（15：00～16：30）

「学校の省エネを推進するための課題と対策について」

（内容）

参加者を6班に分けてグループ討議を行いました。討議には、総合司会として講演者の松井氏にも引き続き参加していただき、各班には司会及びアドバイザーとしてのファシリテーターが1名ずつ加わりました。

討議方法は、各自が、各学校の課題と対策をメモ紙に記入し、その後各自がメモ紙に記入した事項について各班でベスト3を選び、それを各班で模造紙にまとめて発表し、最後に総合司会の松井氏にご指導とご講評をいただきました。

また、参加者からは「他校の取組、気づかないことなど参考になった」「他校の現状がわかってとても参考になった」「ブレインストーミングの手法で楽しみながら参加できた」等の感想が寄せられました。



【3地区ブロック別研修会】

昨年度からの定期監査等の指導事項状況等を踏まえ、各分掌別での疑問点等についての意見交換・解決策の研究及び事務処理内容の相互点検をし、学校事務執行に係る情報の共有や研修を通じた事務スキルの向上を目的としたブロック別研修会を下記のとおり実施しました。

- | | | |
|-----|---------------|----------|
| 東地区 | 平成24年8月28日（火） | 福岡魁誠高等学校 |
| | 平成24年8月30日（木） | 香住丘高等学校 |
| 西地区 | 平成24年8月28日（火） | 修猷館高等学校 |
| | 平成24年8月31日（金） | 修猷館高等学校 |
| 南地区 | 平成24年8月28日（火） | 筑紫中央高等学校 |
| | 平成24年8月30日（木） | 筑紫丘高等学校 |

内容 人件費（報酬・賃金・報償費）、旅費（県外）、支出（11節・13節・15節）

【地区研究委員会】

福岡地区事務研究委員会は、平成24年7月から6名の委員で活動を行っています。

新しいメンバーで研究を始めるに当たり、テーマを「1. 技能員削減（環境整備班導入）に係る事務室の対応について」「2. 計画停電・災害による停電時の対応の問題点と対策について」の2点に絞りました。検討を進める中で、施設管理と災害対応の両面から、事務室の視点に立った「危機管理マニュアル」の作成に向けて月1回定期的に会議を持ち、研究しているところです。

【初任者研修会】

<第1回：半日研修>

7月31日（火） 福岡リーセントホテル

(6)

協会だより

(内 容)

今年度は新規採用の職員をはじめとして、採用2年目、3年目の職員も対象に初任者研修を実施しました。最初に「皆さんに期待するもの」、「初任者の皆さんへ」と題した事務長講話を行い、次に採用2～3年目の職員が「業務を通して見えたもの」「後輩職員に伝えたいこと」をテーマに体験発表を行いました。グループ討議では事前に新規採用職員から提出された「日常業務での問題点」について参加者全員で検討し、活発な意見交換が行われました。

<第2回：半日研修>

10月18日(木) 福岡県立太宰府特別支援学校

(内 容)

採用2年目の職員が講師となり、実務研修を行いました。内容は、「旅費について」「社会保険等事務について」「服務と人事について」で、初任者から事前に要望があがっていた項目を中心に実施しました。

また、第1回目の続きとして、「日常業務での問題点」のグループ討議を行い、最後に特別支援学校の施設(校内の各室等)の見学を行いました。

<第3回：半日研修>

12月21日(金) 福岡県立筑紫丘高等学校

(内 容)

主として採用3年目の職員を対象に、要望が多かった「給与事務」「支出事務」について事務主査の職員に講師を依頼して研修を行いました。また、新規採用職員は「日常業務の課題とその解決方法について」というテーマで実践発表を行い、最後に事務長に講評をいただいて初任者研修会を閉講しました。

● 筑後地区(会長 古賀 洋)

筑後地区では、会員相互の親睦と事務職員の資質向上をはかり、職員間の連携・ネットワークの強化のために、次の研修会・研究活動を行いました。また、筑後地区5支部において支部研修会を行い、その後懇親会を開催し支部内会員の交流を図りました。

また、事務研究委員会は、平成25年度沖縄で開催される九州大会で研究発表を担当するため、5名の研究委員で発表原稿の完成に努めています。

【地区別研修会】

平成24年9月21日(金) 福岡県教育庁北筑後教育事務所 参加者 35名

- 1 講演 「訪問相談員の経験をとおして」
講 師 (財)メンタルケア協会 精神対話士 海江田 展通 氏
- 2 グループ討議・発表 テーマ ・「危機管理について」
・「予算の効率執行について」
・「人材育成について」

【実務研修会】

平成 24 年 11 月 27 日（火）福岡県教育庁北筑後教育事務所 参加者 52 名

- 1 講 義 「財務会計処理の問題点について」
- 講 師 福岡県教育庁総務部財務課予算係 赤間 寛人 氏
- 2 演 習 「諸手当(扶養手当)の事例点検」
- 講 評 福岡県教育企画部教職員課給与総務係 草野 哲弘 氏

【新規採用事務職員研修会】

- 1 第 1 回 平成 24 年 7 月 31 日（火） 八女農業高等学校 13:00～
参事講話、先輩から学ぶ、意見交換、施設見学
- 2 第 2 回 平成 24 年 8 月 28 日（火） 八女農業高等学校 10:00～
パソコン研修（EUC とピボット集計）
- 3 第 3 回 平成 24 年 12 月 26 日（火） 八女農業高等学校 9:30～
新規採用事務職員実践発表、意見交換

【事務研究委員会】

25 年度九州(沖縄)大会に向けて 23 年度から継続研究。研究テーマを「私費」に決定し、筑後地区の学校にアンケート調査を実施。このアンケートを分析し、問題点の洗い出しを行い、発表に向け発表原稿の推敲を重ねています。

【パソコン研究委員会】

パソコン研究委員会は、ちょっとした情報提供でパソコンやソフトウェアが便利に使えるようになるようメールマガジンを発行しています。昨年度までは筑後地区の学校だけでしたが、今年度は全事務職員に送信することができました。

また、今年度は EUC 操作からピボット集計について筑後地区新規採用事務職員研修会を行いました。新規採用事務職員だけでなく採用 2 年目職員も数名参加し、ピボット集計のすばらしさを実感してもらえました。ピボット集計のビデオを作っていますので、協会フォルダの 03 筑後地区<筑後地区パソコン H22.11.11 研修会> をのぞいてみてください。

● 筑豊地区 (会長 田北 忠義)

筑豊地区は、16校の学校で構成されており、学校教育活動の増進に寄与することを目的として、会員の資質の向上を図るための研修・研究を行っております。

また、24年度は新規採用職員6名と職種変更をした職員2名を迎えて、これまで以上に新規採用研修会などが活発に行われました。

【新規採用者等研修会】

(1) 第1回 平成24年7月10日(火) 福岡県立嘉穂東高等学校

①講義「旅費について」

福岡県教育庁財務課 主任主事 赤間 寛人 氏

旅費についての基本的なことから、具体的な事例を挙げての解説が行われ、多くの質問がだされました。

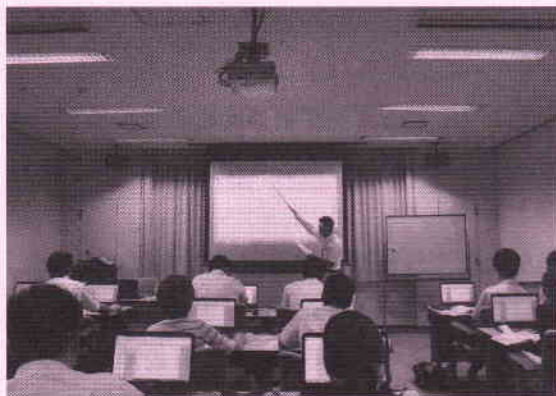
②講話及びスピーチ

先輩事務職員講話

直方聾学校 主任主事 野見山 孝義 氏

直方高校 参事兼事務長 西井上 学 氏

新規採用職員スピーチ



(2) 第2回 平成24年9月10日(月)

たがわ情報センター

①パソコン研修会

講師 (株)クリエイティブジャパン

植木 伸一郎 氏

表計算ソフトエクセルを使用しての中級程度のパソコン講座を終日行い、最後に、応用編として差込み印刷の方法などを学びました。

(3) 第3回 平成24年11月30日(金) 福岡県立嘉穂東高等学校

①「生徒指導と学校事務職員」福岡県立ひびき高等学校 教頭 青木 圭子 氏

②「職場の健康づくり」(財)西日本産業衛生会 管理栄養士 松尾 康子 氏

「生徒指導と学校事務職員」では、電話や来訪者からの要望や苦情の最初の窓口となる事務室に勤務する職員として、初期対応や校内連携などの大切さや、誠意をもって対応することなどが述べられました。

「職場の健康づくり」では、お酒と上手につきあう方法をテーマに、適度に飲めば、体に良いお酒を、自分の体質や他の食べ物と合わせて上手に飲むことの大切さを改めて感じました。

【地区別研修会】

平成24年9月28日(金) パドドゥ・ル・コトブキ

(1) 講演「学校事務職員に期待すること」

講師 嘉穂東高校(筑豊地区校長協会会長)校長 花田 正 氏

管理職になって、特に校長になって初めて事務室の仕事が複雑で多岐に亘っていることや、教員と事務職員の意識のずれ、教員組織の二面性、事務職員の定数減が予想される中での事務の効率化、研修体制のあり方、事務室から教職員、保護者、地域への情報発信を活発に行うことの重要性などが述べられました。

(2) 研究協議「これからの事務室を考える」

発表者 嘉穂特別支援学校 主任主事 本田 慎悟 氏

鞍手高校 事務主査 若林 裕子 氏

嘉穂総合高校 事務次長 山本 美都子 氏

司会 嘉穂高校 事務主査 森永 竜太郎 氏

助言者 筑豊高校 事務長 田鹿 純 氏

討議内容 昨年に続き、それぞれ各世代の発表者3人が、学校での経験を踏まえて試行錯誤の中、いかにスキルアップやコミュニケーションなどを図り時代の変化に対応する能力や意識改革を行い、将来への展望を開くかなど、今回はグループごとに活発な議論が行われました。

【実務研修会】

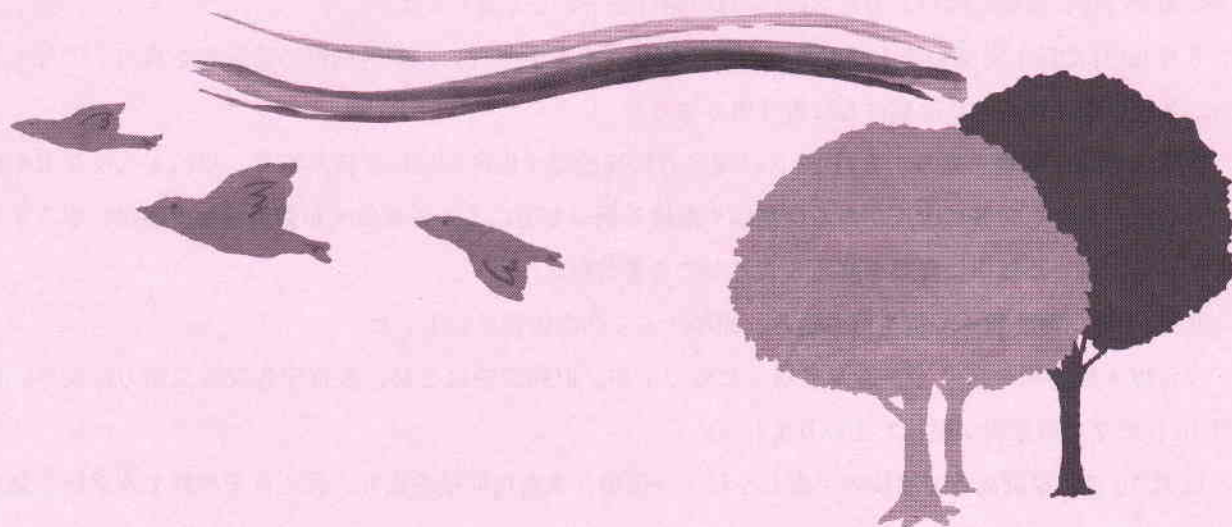
平成25年1月29日(火) 福岡県立直方高等学校

(1) 研究協議「会計事務担当者会議の報告について」

(2) 研究協議「監査結果などを踏まえた事務の適正化について」

今年度、二日間にわたり行った会計事務担当者会議(収入・支出・旅費・人件費)での質疑事項への解説などを、財務課予算係から講師を迎えて行いました。

その後、筑豊地区で行われた会計指導・書面監査・定期監査などについての結果が報告され、それに対する意見交換が行われました。



各研究部報告

●事務改善委員会（委員長 植木 幸隆）

今年度から事務改善委員会は、次のように活動を進めていくことを考えています。

22年度は、新規採用職員意識アンケート調査、23年度は、事務引継ぎマニュアルー転勤したらどうするーというテーマで、調査、研究での活動を行いました。

そこで、今年度からは事務改善の捉え方を会員の職務遂行支援という観点から、より良い職場環境づくりに役立つ研修を事務職員協会との共催で主催事業として実施してはどうかと考えました。

各地区では、地区別、実務、新規採用職員、会計事務研修が実施されているところです。

したがって、本委員会では全県的な研修を事務改善に係る専門的な位置づけとして、研修部理事と協議しながらテーマ、内容、講師を選定して、計画を進めたいと考えています。実施時期は、会員の皆様が集まりやすい25年6月から8月ぐらいの予定としています。

今年度の活動状況は、次のとおりです。

- 第1回 平成24年11月30日（金） 研究テーマの検討、決定
- 第2回 平成25年1月中旬（予定） 研修テーマ・内容・講師検討
- 第3回 平成25年2月下旬（予定） 研修テーマ・内容・講師決定

各回会場 福岡リーセントホテル

事務改善委員会へのご意見、ご要望等を各地区の委員へお寄せください。

また、今後とも当委員会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

●事務提要委員会（委員長 桑原 利治）

事務提要委員会は、今年度も委員会の本旨であります提要4編の追録原稿作成を行っております。

なお発行は、活動計画のとおり25年4月の発行を予定しております。

6月29日に毎年定例の第1回県委員会を福岡リーセントで行い、地区別担当箇所等を決め、7月・8月、各地区別に精力的に原稿作りに取り組みました。

作業は各地区順調に進み、8月22日、博多青松高校に4地区が原稿を持ち寄り、集約・点検作業を行いました。今年も頻繁に改正がある庶務編や暴排条例の変更により各種様式が替わった支出編に手こずりながらも、何とか無事に作業を終えることができました。

9月21日、財務課へ原稿を持ち込み、原稿チェックの依頼をしました。

今年度も庶務編のボリュームが多かったのですが、財務課をはじめ、教育庁各課のご協力により、11月16日に全ての原稿が戻ってまいりました。

12月18日、福岡高校で原稿の手直しを行い、以後、業者に原稿を送り、校正作業を経て本追録の発行

となります。

「事務提要ライブラリー版」につきましても、平成23年度版は5月4日に更新、平成24年度版も全メンバーで12月から修正に着手し、こちらも年度内には更新したいと頑張っております。

ここで昨年から引き続きのお願いとなりますが、提要委員が希望したときは、所属に「一太郎」の購入をお願いできませんでしょうか。ご承知のとおり、行コミパソコンの更新に際し、ライブラリー版原稿の大半を占める一太郎が配備されません。ワードへの切替は、大部分の一太郎派委員にとって既に、技術的にも時間的にも重い負担となっております。作業効率や委員のストレスにご理解をいただきまして、ご協力をお願いしたいと思います。

「文書分類表」の更新につきましては、3月に「D：学事」の部分を、5月に「A～C：共通」及び「D：学事」の完全版をライブラリーに登載配布しています。来年度版の作業も同様の日程になると思われます。

分類表の更新作業につきましては、新年度当初の文書事務のための2段構えであること、また、システム上、自力入力であることは致し方のないことと多少の遅れはご理解いただき、今後ともご協力をお願いいたします。

また、事務提要委員会では、会員の皆様のご意見・ご要望等を寄せていただくため、「め安箱」を協会のスマートページに設置しております。(スマートページ>G教育庁のフォルダにあります。)皆様、大いにご活用ください。

最後に、委員は多忙な本務の合間を縫って、多くは自分の時間を割いて活動しております。また、各地区の地区委員の皆様にも鋭意ご協力をいただいております。委員の皆様には感謝の念を抱きつつ、会員の皆様には、今後とも事務提要委員会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

●情報委員会 (委員長 松尾 重治)

1 平成24年度の活動

第1回委員会において、昨年度までの活動を振り返り、今後の取組みについて協議をしました。ホームページの更新等継続的に取り組まなければならないものもありますが、今年度は各学校における所属共有フォルダの使用状況を調べ、問題点や課題の把握に取り組むことにしました。第2回目の委員会を県庁OA研修室で行い、各委員が所属する学校の状況を見ました。導入されてから数年が経過していますが、各学校ではフォルダの管理や利用の仕方に工夫を凝らしているのを知ることが出来ました。これから更に調査・検討を重ねながら、情報委員会として何が出来るのか取組みを進めていきたいと考えています。

なお、筑後地区の活動紹介や実用ソフト(H24給与支払報告書・源泉徴収票)を提供させていただきましたが、今後も便利な情報や資料等を提供していくつもりです。会員の皆様においても、情報委員会へのご意見や提案等がありましたら、お知らせください。

2 活動状況

(1) 第1回 平成24年7月12日(木) 福岡リーセントホテル

平成23年度の活動について

平成24年度事業計画について

(2) 第2回 平成24年10月16日(火) 県庁OA研修室(県庁10階)

所属共有フォルダの使用状況等について

ホームページ管理規程について

県協会のホームページ等について

(3) 第3回 平成25年1月31日(木) 都久志会館

所属共有フォルダの使用状況等について

各研究大会等

◎ 第60回九州協議会研究大会並びに総会

○ 開催日 平成24年6月14日(木)～15日(金)

会 場 福岡市民会館

今大会は九州・沖縄から461名(うち本県から182名)の参加がありました。本県での開催であり、会員の一致団結のもと、無事に大会を終えることができました。皆様の御協力に深く感謝申し上げます。

永年勤続表彰は、本県から17名の方が表彰を受けました。おめでとうございます。

【研究発表】

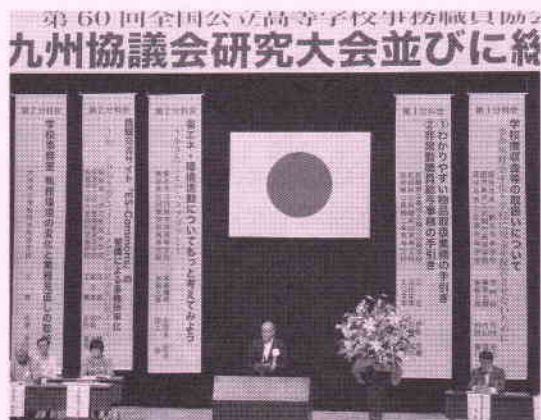
本県の発表のテーマ 「学校における様々な対応」

～こんな事務室で大丈夫ですか～

発表者	稲築志耕館高校	事務主査	中島 悟
	嘉穂高校	主任主事	小森 佳子
	直方高校	主 事	山崎 修平

私たち学校事務職員の担う役割は多様化しており、様々な要望に対応していくうえで、どのような対応に困っているのかアンケート調査を行い、それを基に普段起こりうる様々な問題・場面をストーリー形式で紹介して、その問題点と解決策を考えていくという発表内容になっています。

事務職員は「緑の下の力持ち」ではなく学校経営のプロであり、直面する様々な問題点に対しよりよい解決策を常に研究してその職務にあたるよう努力することで、教員や保護者、地域住民からの信頼を得ることができるし、学校教育活動が円滑に進んで学校の活性化にもつながるという大変有意義な発表が行われました。



来年度は、平成25年6月13日～14日（金）沖縄県浦添市で開催されます。本大会では筑後地区の発表が行われますので、応援をよろしくお願いします。

◎ 研究発表会並びに総会

- 開催日 平成24年6月15日（金）

【総 会】

今年度は、九州協議会研究大会が本県で行われたため、大会終了後引き続き市民会館で福岡県の総会が開催されました。議案は全て提案どおり議決されました。

【その他】

昨年度の九州大会で発表された北九州地区の2名の方、全国大会で発表された福岡地区の3名の方及び前役員の方2名に感謝状が贈呈されました。お疲れ様でした。

また、今年度の新規採用職員の紹介等が行われました。

来年度は平成25年5月開催予定です。

◎ 第65回全国公立高等学校事務職員研究大会、総会

- 開催日 平成24年7月26日（木）～27日（金）

会 場 茨城県 ホテルレイクビュー水戸

今大会は全国から約870名（うち福岡県から58名）の参加がありました。予想よりも多くの参加者があったということで急遽第2会場を設けるという事態がありましたが、事務職員の資質向上と学校事務の充実・発展を目的とした大会の運営は大成功に終わりました。

永年勤続表彰においては本県から10名の方が表彰されました。おめでとうございます。

また、記念講演ではミュージアムパーク茨城県自然博物館の菅谷博館長が「野生動物にみる親子のかかわり」と題して、動物にみる親子の絆や母親の役割の重要性について述べられました。



来年度は平成 25 年 7 月 25 日（木）～ 26 日（金）岐阜県岐阜市で開催されます。

◎ 県立学校事務職員主事・主任主事研修会

○ 開催日 平成 24 年 10 月 19 日（金）

会 場 福岡リーセントホテル

教育庁総務課との共催で、採用 2、3 年目の事務職員及び義務制からの異動者を対象に研修会が実施されました。若年層の職員に対して、地区の枠を超えた研修を行うことにより、学校間の連携強化及び資質の向上を目的とする研修会で、42 名の参加がありました。

○ 研修内容

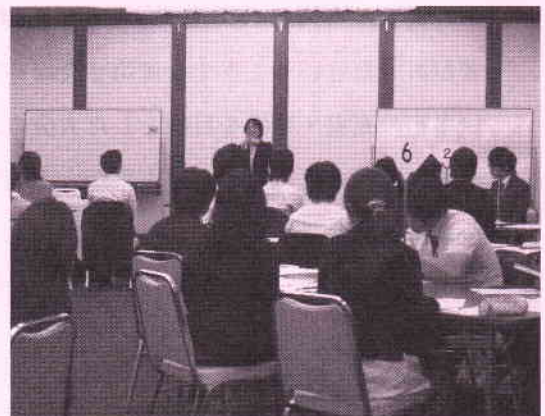
1 「クレーム対応」

講師 株式会社インソース 大驛 郁子 氏

あらゆる業界に求められるサービスの水準が高くなってきて、多くの企業・組織でサービス向上のための取り組みが行われており、学校もその例外ではありません。保護者や外部の方からのクレームに対してどう対応していけばよいか、その現状と解決策について、班別のグループに分かれて話し、発表を行う形式での研修が行われました。

2 フリートーク

班別にテーマを決めて自由に話し合うフリートークが行われました。日々の業務を行ううえで疑問に思っていること、困っていることについて、同じ年代の職員と意見交換を行うことができ、短時間ではありましたが有意義な研修ができました。



次回は平成 26 年度に実施される予定です。

— 中堅職員研修参加者からの報告 —

全国公立高等学校事務職員協会事業となる「中堅事務職員研修会」が平成24年11月22日に東京都文京区文京シビックセンターで開催され、本県から4名の方が出席されました。その研修会報告を協会の方でも受けましたので報告させていただきます。

特別支援学校「北九州高等学園」事務次長 生田 千博

学校事務職員から校長になるという希有な人事を経験している埼玉県立羽生高等学校の野口 肇校長の講演を大変期待しての参加だった。それも事務長、教頭、校長と管理職を経験していることからして、学校運営という側面を、出納から教育活動まで全て知り得るということは、通常考えられないことである。学校事務職員の中には、教員免許を有して、最低でも教育実習を経験している者もいるだろうが、事務職として職業経験を長年積んだ上で教育職に就くこと自体、視点観点の違いは明かで、障害にもなるだろうと想像しながらの講演拝聴だった。

ご本人の弁によると教育課程が解らず、学習指導要領が読めなかったとのこと。今、我々事務職員は学校教育に資する専門家として、また、事務職員の生き残り策として、教育課程を知り教務事務をやるべきだとの声をよく聞くが、土台、机上で想像しながらの教務事務処理は、野口校長が経験したように、具体的教育活動の展開を知らないために、苦勞するのは自明の理であると思われた。今後、事務職員が教務事務を取り込むことへの教訓となるものであろう。

教員から見て事務職員としての必要なスキルとして、コミュニケーション力を問うていた。ただ単に、他者との会話能力を言っていた訳ではなく、教員からの情報収集を巧みにこなし、事務側から学校経営に対して、企画を提案する能力を問うていたのは興味深かった。井の蛙から、教育活動や学校運営に関して興味を持たず、情報を知ることもなく、物買い請負業としての存在感では、事務職員は必要でなくなる。より良き教育活動ができるよう、教育活動を知り、子どもたちのためになる事務の展開とは何かを追求していくことこそ、事務職員の有用感・存在感が増すとの意見には、大いに賛同できた。こういった視点は、事務から教員を経験した者が故の説得力である。また機会があれば、同氏ともっと語らって見たいとの感想を持った。この研修会に参加したことで、全国の事務職員との意見交換や交流など、得難き経験ができた。是非、機会を多く与えて頂ければ幸いである。

伝習館高等学校 事務次長 金納 芳典

平成24年11月22日東京渋谷区代々木の「国立オリンピック記念青少年総合センター」において行われた中堅事務職員研修会について報告します。

最初の研修として、事務職員として7校を勤務され、その後知事部局・教育局・特別支援学校の教頭を経て、現在県立学校の校長として2年目を迎えられた 野口肇校長による「学校事務職員に必要なスキル」と題する講演が行われた。「行政職の出身校長」、「教員経験の無い管理職」としての苦勞・思い、長年経験された事務職員としての意識の持ち方・危機感、何よりも生徒・学校に対する強い思い（ビジョン）について熱心に語られ、強く共感できる内容であった。

次に、最初に行われた講演をもとに「学校事務職員に必要なスキル」について、班別の討議を行った。討議を通じ他県の学校の状況・現状等の情報交換を行い、今後の「学校事務」に必要なスキルについては、専門的な知識は当然ではあるが、加えて相手の主張を聞き取るリスニング能力、協調性又はコミュニケーション能力、今後の学校事務の変化に対応できる適応能力が重視されるとの意見で班員の同意を得た。また討議の中で宮崎県の事務の方が、「頼まれた仕事は断らない」「立場（仕事）が人を育てる」と強いビジョンを述べ、他県の感動を得た。

最後に「初等中等教育行政について」文科科学省により講話が行われ、有意義な研修を受けることができた。

筑前高等学校 事務主査 田中 亮

開会式が行われた後、午前に埼玉県立羽生高等学校長 野口 馨 氏により講演が「学校事務職員に必要なスキル」と題してありました。野口氏は学校事務職員として採用され、5校経験後事務室長として2校勤務し、その後知事部局2年、教育局6年と勤務を経て、特別支援学校の教頭として1年勤務した後に羽生高等学校の校長として現在2年目を迎えられている方です。

野口氏は学校に「県民の立場で学校を見るために勤務している」と話され、事務職員として必要なスキルの考え方としては、教員とのコミュニケーションはあるか、請負業に徹することができるか、危機感はあるか、事務室がなくなると学校が立ち行かないと言われるくらい関わっているかという点を挙げられ、何よりも生徒のためを考えて行動することが重要であると話されました。説得力がある講演で、学校事務職員として学校運営に関わっていく心構えを学びました。

午後は「学校事務職員に必要なスキル」と題して班別討議が行われ、討議後各班の発表が行われました。各班に共通していた結論は、教員などの職員、生徒、保護者とのコミュニケーションを行っていき、人間関係作りの能力の向上により、職務上の様々な問題の円滑な解決に役立てていこうというものでした。

班別討議で私が入っていた班の長崎県の方の話が印象的でした。その方が勤務している事務室の県職員が事務長を含んで2名に減らされており、長崎県の予算不正執行問題により1件あたりの契約金額が以前と比べて低くされているため、支出伺いの作成頻度が高く非常に多忙になっているということで、人員を減らす流れが全国的にとっても強いと感じました。

班別討議後は文部科学省講話が「初等中等教育局の行政について」と題してありました。今後は多様な教育体系の確立（六三三制の柔軟化）に向けたシステム開発により、小中一貫教育制度の創設・高等学校段階の早期卒業制度の検討・高等学校の類型を念頭に置いた教育の改善・充実を進めると話されました。

今回研修に参加して、他の都道府県の方の話聞くことができ、いま学校事務職員が置かれている現状を知ることができました。視野をより広げていく必要性を感じることができました。

直方高等学校 事務主査 久留 道

午前中は事務職員、事務長として勤務し校長となった 埼玉県立羽生高等学校 校長 野口 馨 氏から講演がありました。教員経験がないことや民間からの採用ではないゆえの苦労、悩みなどについての話があり、これからは教員とのコミュニケーションをより密にし、事務室としてどれだけ学校に関われるか、ビジョンを持てるかが大事になるとのことでした。今まで勤務してきた7校すべての校歌を歌えると言われたことが印象に残りました。

午後は午前中の講演を受けて9人位のグループに分かれて班別討議が行われ、職員朝礼や職員会議・運営委員会・各種委員会などの会議の事務職員の出席状況や、教員の起案文書のチェック、また年少者の同僚・部下を持つ立場となっている状況で、中堅職員としてどのように関わっているかなどの情報交換を行いました。

文部科学省講話では、「初等中等教育行政について」初等中等教育局の手塚和貴氏から、近年の教育改革の流れなどについての説明がありました。

全国から自分と同年代の学校事務職員が集まったの研修に参加させていただき、班別討議では幅広い情報交換ができたことは、大変意義深いものとなりました。



「^し至^{そく}足^{ゆう}優^{ゆう}游」



元協会の方から「近況報告」を頂戴いたしましたのでご紹介させていただきます。

「やればできる」

山内 興亜（元福岡中央高等学校事務長）

平成12年3月31日退職

退職後も町内、事務長OB会など全ての事務はパソコンのお世話になっている。最近、このパソコンが突然“固まる”ことが多くなった。息子夫婦が使い、孫まで使っている。昔見たい文書、表計算だけではない。インターネットからメールなど多岐にわたっている。誰も一旦入力するものの不要なファイルを消すことはしない。本で調べるとディスクが飽和状態であるときに“固まる”ことがあるので、不要なファイルを削除したらいいと書いてある。

早速、消し始めたが、少々消してもなかなかディスクが空かない。思い切ってもう少し大胆に消し始めた。ところがである。急に次の仕事が入ったので、パソコンの住所録を開いてみたが、いつもすぐに出てくる住所録が出てこない。いくら探しても見つからない。仕事は迫る、とうとう180余名の住所録の新規作成だ。同じものを二つ作るほど、あほらしく悔しいことはない。自業自得だ。

なんとか急場は凌いだ、このパソコンもすでに5年以上は使っている。ディスクも簡単に不要なファイルを削除することが出来ない。思い切ってパソコンを買い換えることにした。店に行くと、インターネット込みで定価から5万円引きますとのことである。後先考えず飛びついた。当然、電話、インターネットやケーブルTVなどのセッティングは、前は全て業者がやってくれたので、今回も同じようにやってくれるものと思っていた。

しかし、いつまで経ってもインターネットやケーブルTVのセットに来ない。すぐ電器店に行く有料ですとのこと、やむを得ずお願いした。すぐに業者が来て、パソコンへのインターネットのセットは終わった。ケーブルTVのセットはと聞くと、別料金だと言う。ああ、自分の詰めの甘さに呆れてしまう。

もうこれ以上はお金を掛けたくない。資料を見ると“超かんたん接続”とか書いてある。それから毎日ケーブルTVのセットのため大量のカタログ、資料、機器などと首っぴきである。資料を見ながら悪戦苦闘である。やれモデム、やれチューナー、ケーブルと一つひとつ既存のTVにケーブルTVが映るか、既存のTVの差し込み口にケーブル口の凹凸○△を合わせ、確認しながら、やっと自分と息子の部屋のTVに新規のケーブルTVが映った。試行錯誤であったので、述べ1ヶ月ほど掛かったが、さすがにTVが映り、旧PCにインターネットが通じたときは嬉しかった。

しかし、以前のアンテナではBSはきれいに映るが、肝心のNHKなどの地デジが鮮明に映らない。業者に聞くと、ケーブルTVだけは今の有線のケーブルを利用するしか方法が無いという。自分だけなら我慢できるが、息子や孫達にはきれいに映るTVを見せたいし、仕方がないかなと思う。現在契約中のケーブルTV会社に聞くと、使用料だけで毎月2500円も掛かると言う。ああ、今までの苦労は何だったのか。残念無念である。

時間はずいぶん掛かったが、モデム、チューナーやケーブルなどのセットや機器の役目も分かり、本当に良い勉強になった。

その後、孫が新しいPCのハードディスクを壊し、インターネット、メール、各ソフトのインストールなどを余儀なくされたがすべて一人でクリアした。

今までパソコンは打つことくらい、TVはリモコンを押すことくらいしかやったことがなかったが、よくもまあ、最後まで諦めずに頑張ったものだと、今はひとり感心し、悦に入っている。